家保だより 秋号

発行機関：熊本県中央家畜保健衛生所　住所：熊本市南区城南町沈目1666-1
TEL：0964-28-6021
E-mail：chuuoukaho@pref.kumamoto.lg.jp
HP address：https://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/78/

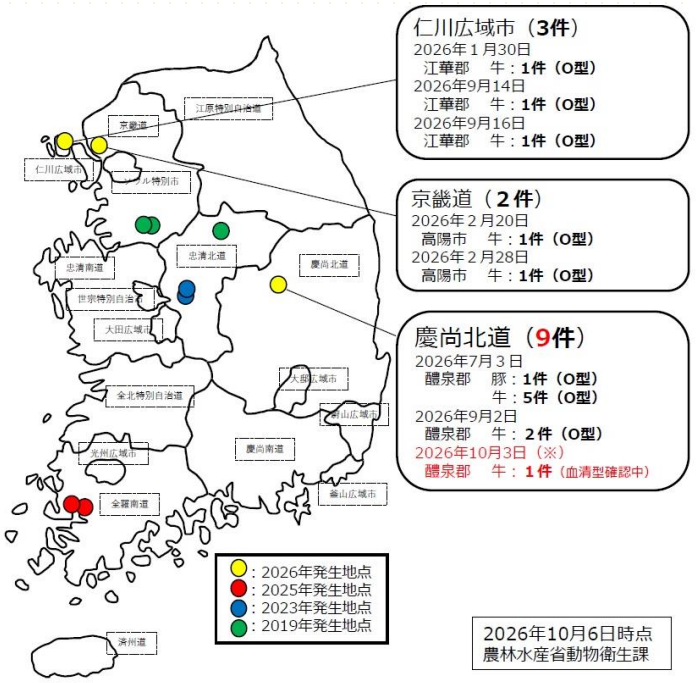
韓国で口蹄疫が継続発生しています

2026年1月、韓国では9か月ぶりとなる口蹄疫の発生が確認されて以降、現在も継続発生しています。家保だより夏号でも牛と豚での発生をお知らせしましたが、**9月に牛で4件、10月に牛で1件**の合計5件が新たに発生しています。

また、中国でも9月に豚で1件発生が確認されており、日本国内へ口蹄疫ウイルスが侵入するリスクが極めて高い状況が続いています。

口蹄疫発生予防のため、関係者以外の農場への立入を制限し、農場内での人・物・車両の消毒を徹底しましょう。

泡沫状の流涎や口、蹄、乳房の水疱等、異状を発見した際は、速やかに管轄の家畜保健衛生所に連絡してください。



口蹄疫



口蹄疫に関する最新の情報は、農林水産省HPをご確認ください。

高病原性鳥インフルエンザの特別防疫対策期間が始まりました

熊本県では、毎年11月から翌４月までの期間を、「**高病原性鳥インフルエンザ(HPAI)特別防疫対策期間**」と定めています。

11月11日には、京都府亀岡市で高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜が確認され、令和８年シーズンの初発事例となっています。養鶏農家の皆様におかれましては、「**異状の早期発見・早期通報**」及び「**農場における発生予防対策**」の徹底をお願いします。



家きん

家きんのHPAI情報は、農林水産省HPをご確認ください。

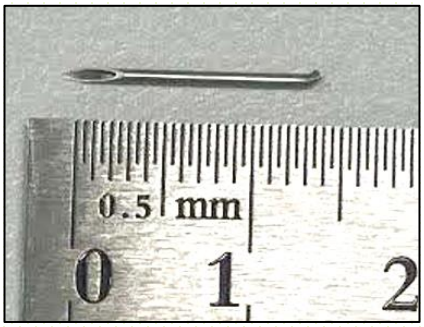


野鳥

野鳥のHPAI情報は、環境省HPをご確認ください。

流通前の牛肉から注射針が検出されました

- 本県の農場から出荷された牛の食肉製造過程で、X線装置に通した際に**注射針**が検出されました。
- 通常、ブロック肉は、金属探知機を通過しますが、**小さな異物は検出されない可能性**があります。
- 検出された注射針の太さは21G程度であり、子牛の注射に用いるサイズでした。



- 獣医師及びその指示の下で注射を行う家畜の所有者は、使用後に針の破損がないことを確認してください。

針が折れたら**記録**をし、出荷時に必ず**伝達**してください！



食の安全を守る「Farm to Table」

- 「Farm to Table（農場から食卓まで）」とは、食品の安全を生産から消費まで一貫して守る考え方です。生産現場は安全の「第一走者」です。農場での適切な飼養管理が、消費者の安心と熊本県の畜産への信頼を守ることに直結しています。



ヨーネ病について

ヨーネ病は、ヨーネ菌（*Mycobacterium avium* subsp. paratuberculosis）を原因とし、**牛（乳用牛・肉用牛）、めん羊、山羊**などの反芻動物に、**慢性の頑固な間欠性の下痢、乳量の低下、削痩**等を引き起こす病気です。また、特徴的な病変として、腸管粘膜にワラジ状の肥厚がみられます。

国内の搾乳牛や種雄牛では定期的に検査が実施されており、令和7年度は494戸1,109頭、令和6年度は525戸1,198頭の発生が報告されています。

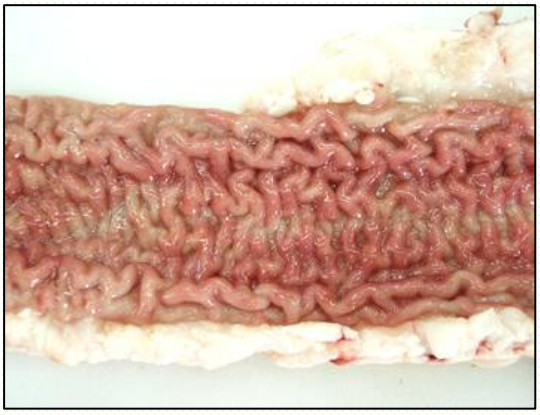


下痢を呈した発症牛 【農研機構HPより】

ヨーネ病の感染経路は、経口感染が主であり、感染母牛から子牛への感染、同居牛への水平感染が問題となります。

本病に有効な治療法及びワクチンはないため、対策として、患畜及び保菌牛の摘発とう汰、その後の徹底した牛舎の清掃、消毒が重要となります。





（左）削痩した発症牛　（右）ヨーネ病発症牛の腸管病変
【日本医療研究開発機構HP（農研機構提供写真）より】

近隣諸国における海外悪性伝染病発生状況

病名	型	発生地（国）	畜種（件数）	発生年月日
アフリカ豚熱（ASF）		韓国	野生いのしし	7月～8月
高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）	H5N1	台湾	ほろほろ鳥（１）	9月23日
口蹄疫（FMD）	O型	韓国	牛（５）	9月2日～10月3日
	O型	中国	豚（１）	9月8日

令和8年（2026年）10月 8日現在

神経症状を呈する子牛・育成牛について

熊本県内（中央家保、城北家保及び阿蘇家保管轄地域）において、主に育成牛で四肢のナックリングや後肢の脱力・負重困難による起立不能の病性鑑定事例が増加しており、アカバネウイルスの生後感染が疑われている状況です。

本県では、20年前（平成18年度）にアカバネウイルスの生後感染による起立不能や神経症状が認められ（下図参照）、夏から秋にかけて延べ124頭※の発症が確認される大流行となりました。（※病性鑑定実施頭数）

H18年度の発生の際に確認された、ナックリング、後肢の脱力
並びに神経症状を呈する牛





**上記の症状に注意していただき、
病性鑑定を希望される場合には家保までご相談ください**

九州でランピースキン病が2年ぶりに確認されています

11月、福岡県・長崎県・鹿児島県の牛飼養農場においてランピースキン病が確認されました。国内では約2年ぶりの発生となります。

つきましては、感染を広げる吸血昆虫への対策を実施していただくとともに、以下写真のとおり、本病の特徴的な臨床症状を御理解いただき、飼養家畜の健康観察及び異状を認めた場合には早期通報をお願いします。

